

## 相対補充節から見た「内の関係／外の関係」の分類 三好伸芳

日本語の連体修飾節における「内の関係／外の関係」についてはさまざまな議論がなされているが、いわゆる相対補充と内容補充の解釈が同時に成立しているように見える連体修飾節の存在が丹羽（2012）「連体修飾節構造における相対補充と内容補充の関係」（『日本語文法』12-2）によって指摘されている。

一方で、丹羽（2012）の分類基準に基づけば、(1) のような例に相対補充的な意味的性質を認めなければならず、相対補充の解釈と内の関係の解釈が両立していると分析する必要が生じる可能性がある。

- (1) a. 太郎はレポート課題の参考にする論文として言語学の専門書を借りた。
- b. 私は事務仕事を任せるアルバイトに知り合いの学生を呼んだ。

(1) は内の関係の連体修飾節であるが、「～ための」という〈寄与〉の解釈が可能である。本発表では、このような例の観察を通じ、次のような分析を行った。

- (2) a. 語彙的相対性  
連体修飾要素が修飾する名詞の持つ語彙意味的な空所が問題となる構造。
- b. 文脈的相対性  
被修飾名詞句と文内の他の要素との同一性が問題となる構造。

(2) のように相対性のレベルを分けることで、「内の関係／外の関係」の分類を、より一貫した観点で分類することが可能になると考えられる。